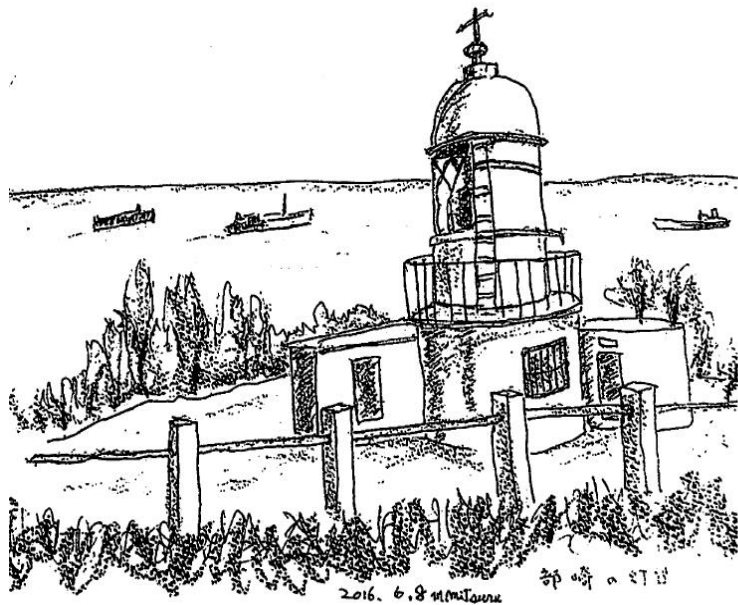


週報2022年10月2日



2022年教会標語聖句

起きよ。光を放て。あなたの光が来て、
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

イザヤ書60章1節

シオン教会信仰指標～人生が変わる！御言葉の光に照らされて～

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2022年10月2日

ピアノ：赤松姉 オルガン：力丸勝子師

司会：小松姉 献身の祈り：阪本姉 メッセージ：山崎牧師

開会の祈り		司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和	
賛美	新聖歌 420「雨を降り注ぎ」	
祈 禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*	
献身の祈り		阪本 姉
賛 美	新聖歌 464「汚れと争いは」	
賛 美	コーラス 5「さあ主にささげよう」	
聖書朗読	コリント人への手紙 第二 12章9節	
説 教	「弱さの中に働かれる神の恵み」	山崎 師
聖 餐 式	奉仕者：大熊兄・大谷兄・大熊姉・吉武姉	
	応答の祈り	
頌 栄	「主の祈り」	
祈 禱		山崎 師

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈り合っていますか

説教要約

コリント人への手紙 第二 12章 9節

「弱さの中に働かれる神の恵み」

①当時のクリスチャンの間にはパウロ以外にも巡回伝道者がたくさんいたようです。パウロのような犠牲を惜まず、長い距離を移動し福音を伝えていた人もいます。しかしその一方で、間違っただけの教え（礼拝の際、厳しい規定を押し付ける等）を伝え回っている人もいました。そういった背景の中で、その巡回伝道者が誰に推薦されて教会に来たか“推薦状”の有無がとても大切になりました。

しかし、これも結果として、誰に推薦されているかで伝道者の優劣が判断されるようになりました。つまり使徒（ペテロやヨハネ達）に推薦されてきた伝道者が偉く、推薦状の無い伝道者は信用できないという状態です。パウロはそう言った間違っただけの判断基準を正す為にこの手紙を書いています。しかし結局のところ、コリントの人々は使徒でもないパウロにとにかく言われたくないと彼の言葉をつっぱねて、パウロとコリントの人々の間に亀裂が生じました。

第一番目のポイントは、私達は人の評判によって自分を誇り高ぶってはけないと言う事です。そしてもう一つ、評判によって周囲の人（もちろん兄弟姉妹も含む）の人格を高く上げたり、低く貶めたりしてはいけないと言う事です。パウロがこの書簡で投げかけている質問は「私達は信仰者として何を誇るのか？」です。

②パウロは14年前に見た幻の話をしてします。回りくどい言い方ですが、彼は“推薦状”と言うこれまでの話の中で、この話をしてしています。つまりこの体験を証する事で、コリントの教会の人に伝えたいことがあったのです。それが先程のパウロの質問の答えにつながります。それは「私が誇りにしているものはそれはキリスト」です。

パウロは自分の評価も信頼も失墜するなかで（ちなみにパウロに落ち度がない）彼がとった行動は言い訳や自己推薦ではありませんでした。“私はキリストに推薦されている”これが彼の一番言いたかったことであり、誇りです。心が折れても仕方ない状況の中でそれでも彼はぶれる

事なく、キリストを証したのはいつでも変わらず自分を愛し、恵みを十分に与えて下さる神様を信頼していたからです。もう一度書きますが彼の誇りはキリストに選ばれた事なのです。パウロは自分の名誉より、キリストの愛が広がる事を選びました。

自分の名誉が傷つく事があります。不当な扱いによって…という時もあります。ふとしたことで自分の信頼が崩れ去る事があります。実の所、信仰者が試される場面はそう言った時です。不名誉に対して憤慨する、挽回の為に必死に頑張る、それが正解でしょうか？今日私達が学ぶべきことは“**例え人がどう言おうが私の恵みは主に在って十分**”だと言うことです。その時、聖霊によって自然に成すべきことが導かれて行きます。私達が出来る事は“主を誇る事”です。

③パウロが言うトゲについてはいくつかの説があります。度重なる迫害により、腰が曲がらなくなった事、生れつきの吃音症等ですが、どれも決定的ではありません。この場合もパウロの意図を読み解く事が大切です。パウロは“あえて弱さを誇り”としました。進んで言うと“弱さの中に働かれる神の恵み”です。

パウロは当初、このトゲが離れ去るように三度主に祈りました。しかし聖書を見る限り、このトゲが取り去られたとは書かれていません。むしろ、そのトゲのあるままを受け入れ、満足していると言っています。その理由が大切なのですが、それは彼が“弱さの中に完全に働かれる神の力”を体験したからです。イエス様は弱い人間の姿を取られました。そして侮辱も受け入れました。それは神の栄光（キリストの十字架による贖い）の為にです。パウロは自分の弱さを通じて、神の栄光が現わされる事を選んだのです。

人間は弱い自分を隠す傾向があります。つまり強く見せるのは自分を“推薦”し良く見せる為です。しかし聖書が示す本当の“強さ”とは、“**どんなことがあっても愛する事を止めないこと**”です。イエス様の愛が自分の心を押し迫る時、今の自分を通じて神の栄光が現わされる事を真実に望むようになります。私達が今望む者は自分の栄光でしょうか？神の栄光でしょうか？今日の箇所から学び神の栄光を追い求めて参りましょう。